

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K10561

研究課題名(和文) 看護学生のFitness to Practice評価尺度の開発と教育モデルの構築

研究課題名(英文) Development of Fitness to Practice Assessment Scale for Nursing Students and Construction of an Educational Model

研究代表者

阿部 祝子(Abe, Shuko)

東京医科大学・医学部・教授

研究者番号：40575693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：2022年末までに質問票作成の原案の作成(Phase 1)について、研究代表・分担者所属の研究機関の研究倫理審査委員会で許可を得た。英国のGMCのFtPで懸念される行動8つの側面、NMCの看護・助産学生の職業行動に関するガイダンスの52項目、獨協医科大学で翻訳された質問項目、本学科作成の冊子等の文献を参考に、研究代表者が看護学生のアンプロフェッショナル行動やFtPの具体的質問項目を考えた。各研究機関の研究代表者・研究分担者とオンライン・面談でこれらの具体的質問項目を検討した。質問項目を抽出する段階で、本人が自覚しない/できない項目もあり得るため、その評価結果の解釈は慎重さが必要と考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代のチーム医療、患者中心の医療において、看護職の活動の場・役割、責務が拡大している。複数の価値観と原則が対立し複雑さと曖昧さが増す現場において、看護職はプロフェッショナルとしての行動と決断で難問を解決する能力が求められる。

本研究では、専門職の倫理綱領に包含される概念を、専門職の目に見える具体的な行動様式・ふるまいの規範を示すFtPに着目した。FtPを測定する評価尺度があれば、プロフェッショナリズムの知識の側面から姿勢・態度、行動レベルを評価し、看護職にふさわしい人間として成長できるプロフェッショナリズム教育・支援に結びつけられると考える。

研究成果の概要(英文)：Permission was obtained from the Research Ethics Review Committee of the research institution to which the Principal Investigator and the Project Leader belong to for the drafting of the questionnaire (Phase 1) by the end of 2022.

The principal investigators considered specific questions for unprofessional behavior of nursing students and FtP by referring to literature such as the eight aspects of behaviors of concern in FtP by the British GMC, 52 items in the NMC's guidance on professional behavior of nursing and midwifery students, translated questions by Dokkyo Medical University, and a booklet prepared by our department. These specific questions were discussed with the principal investigators and research assistants at each research institution through online and in-person interviews. Since some of the items may be unaware or unable to be identified at the stage of selecting the questions, careful interpretation of the evaluation results was considered necessary.

研究分野：看護管理学

キーワード：Fitness to Practice 看護学生 評価尺度

1. 研究開始当初の背景

プロフェッショナリズム(professionalism)とは、専門職業に固有の態度・行動を特徴づけ、仕事役割遂行に必要な志向である[1] Arnold L., Stern DT[2]は、医のプロフェッショナリズムを、臨床能力、コミュニケーションスキル、倫理的・法的理解の土台の上に、卓越性・人間性、説明責任、利他主義の4つの柱でプロフェッショナリズムを支えていると定義した。その後医療システム変革の時代となり、欧米では2002年に新ミレニアムにおける医のプロフェッショナリズム「医師憲章」[3]が発表された。これを受け我が国も医のプロフェッショナリズムのあり方を議論し、2016年医学教育モデル・コア・カリキュラムに位置づけて教育を開始した。看護は、2017年に看護教育モデル・コア・カリキュラムにプロフェッショナリズムが記されたが、具体的な教育方策の議論には至っていない。

2009年に英国のGeneral Medical Council(GMC)では、医学生の特長としての価値観と適切な行動に関するガイドを出版し、専門職として適切でより具体的な行動、つまり目に見える行動様式・ふるまいを「Fitness to Practice(FtP)」[4]として示し、臨床環境外での日常の行動もFtPに影響を及ぼすとしている。医学生に対してこれらのガイドに基づき入学時からFtP教育を開始し、医師の倫理基準に応じた行動を身につけることが期待されている。その一方で、FtPの懸念事項・事例として、Criminal conviction or caution(刑事上の有罪判決または警告)、Drug or alcohol misuse(薬物やアルコールの乱用)、Aggressive, violent or threatening behavior(攻撃的、暴力的や脅迫的な行動)、Persistent inappropriate attitude or behavior(持続的な不適切な態度や行動)、Cheating or plagiarizing(不正行為や盗用)、Dishonesty or fraud, including dishonesty outside the professional role(職業外を含む不正行為や詐欺行為)、Unprofessional behavior or attitudes(職業倫理に反する行動や態度)、Health concerns and insight or management of these concerns(健康上の懸念とそれに対する見識や管理)の8つの側面も挙げている[5]。GMCは、このようなFtPで懸念される行動を評価し、国・教育機関等が一貫してシステムティックに医師の適格性を育てる教育で国民の安全を守っている。同年Nursing and Midwifery Council(NMC)も、GMCのFtPを活用し同様の評価・教育を開始している[6]。

我が国では、2025年問題(高齢社会のピーク)において、限られた看護人材をもって質の高い看護サービスの提供も迫られている。それを担う看護学生は、社会体験が乏しくなり、家族構成も変化し、人間性・社会性が未熟な傾向が認められる。そのため、看護学生の未熟性を学生・教員が自他ともに早期に認識し、看護職にふさわしいFtPを備えた人間として学生の成長を促すプロフェッショナリズム教育が求められている。本学では医学科・看護学科において「アンプロフェッショナル、なぜいけないか?医療者としてふさわしい態度・行動を学ぶために」の冊子[7]を作成やプロフェッショナリズムの科目等を通して、学生に医療者としてふさわしい人間性を涵養する教育・サポートを開始している。

我が国の看護学生のFtPに関する研究は、独協医科大学のGMCの専門家としての価値観と診療への適合性に関するガイド(改訂版)に基づいた看護学生3年への認識の調査[8]が存在する。しかし、この調査で使用した質問項目の信頼性や妥当性の検証はされていない。日英で医療・教育制度・言語や文化の相違もあり、我が国で看護学生のFtPを評価し教育にいかすためにはGMC・NMCの規範に基づく行動やFtP等について異文化を考慮した翻訳が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護のプロフェッショナリズムの具体的な行動・ふるまいであるFtP評価尺度を開発し、看護学士課程学生のその行動・態度、認識の実態を評価することである。

3. 研究の方法

本研究は、質問票作成の原案の作成(Phase 1)と予備調査(Phase 2)を経て、本調査(Phase 3)を実施する。

1) Phase1: 質問票原案の作成

目的: 質問票原案と調査の趣旨や倫理事項の説明を記載したフェイスシートの作成

対象: 看護学生のFtPに関心がある看護学士課程の教員5~6名

1. リクルート方法: 研究者のネットワークを通してSnow Boal方式で対象者をリクルートし、口頭・書面(資料1)で説明し同意を得る(資料2)。

2. 謝礼: クオカード5,000円とする。インタビュー場所まで交通費がかかる場合は、実費で支払う。

3. 調査参加は自由意志であり、インタビュー調査に参加後でも同意撤回書(資料3)に署名し、研究代表者に送付することで同意を撤回し参加を中止できる。

方法: 構成概念インタビューを行う。英国のGMCのFtPで懸念される行動8つの側面[5]、NMCの看護・助産学生の職業行動に関するガイダンス[6]の52項目、独協医科大学で翻訳された質問項目[7]、本学科作成の冊子[8]の文献とともに、これらに基づき研究代表者が整理した各機関に

おける FtP の懸念事項の一覧(資料 10)を提示し、看護学生のアンプロフェッショナル行動や FtP について日ごろ感じていること、追加される概念・事項があるかを語ってもらう。

1. インタビューの所要時間は 1 時間程度とする。
2. インタビューはオンライン会議システム、研究者の所属施設、あるいは対象者が希望する場所・施設でプライバシーが確保できる環境で実施する。
3. インタビュー時、対象者の許可を得て音声録音(オンラインの場合は録画)を行うが許可が得られない場合はメモをとらせてもらう。
4. インタビュー調査の音声データから逐語録を作成し、質的な項目分析によって質問項目(アイテム)を抽出する。
5. 抽出した質問項目について、質問項目の言い回し、読みやすさ、質問項目の適切性、項目数、アイテム間相互関係、キャリーオーバー効果等についてワーディングを実施するとともに内的妥当性を検討する。さらに 2 回程度研究者に加えて日英バイリンガルの英語学元教員、病院の前看護管理者、心理尺度開発研究に携わる心理学元教員に協力を依頼しアドバイスをいただく。
6. 質問票の原案を作成する。

2) Phase2: 看護学士課程学生の FtP 評価尺度の予備調査

1) Phase1- 6 で質問票の原案が作成でき次第、医学研究倫理委員会に変更申請を行い、許可された時点で Phase2 および 3 の調査を開始する。

目的: Phase 1 で作成した質問票原案について、予備調査により信頼性・妥当性を検討し、質問票原案を改定する。

対象: 看護系大学の 1~4 年生, 2,240 名

サンプル数・サイズの根拠: 因子分析に必要なサンプルサイズは、100 以上でアイテム数の 4~10 倍、あるいは 400 以上とされる[9-11]。本研究の質問項目(アイテム)数は Phase 1 で用いた各種資料[5-8]の項目数と回答時間等を考慮し質問項目 40 項目と想定する。web 調査の回収率は先行研究により異なる[12]が、本研究では最低の 20%と想定する。サンプルサイズは分析精度を考えアイテム数の 10 倍に設定すると最低 400 必要で、回収率 20%で計算すると 2,000 になる。実際には、1 大学 1 学年定員が 80 名、1 学年 15 名程度の回答数とすると 4 学年 60 名程度の回答数が得られる。そこでサンプル数は最低でも 7 大学必要となる。Phase 1 で作成した質問項目数が 40 を超えた場合、サンプル数・サンプルサイズを増やす。

適用基準: 研究協力の意向を示した看護系大学の全学生

除外基準: 2022 年度に完成年度に至っていない大学、研究協力の拒否を示した看護系大学の学生

リクルート方法: 2021 年度看護系大学協議会大学一覧で、設置主体の国公立私立大学を含むよう無作為抽出する。研究協力の意向を示す大学が 7 大学に満たない場合は、順次不足分の大学を追加する。謝礼はない。

方法:

1. 無作為抽出された 7 大学の看護学教育課程の責任者に研究目的・方法等を記した研究協力の依頼文書(資料 4)を送付し、看護学生の調査協力の可否を尋ねる(資料 8)。協力可の意向が回答された大学の教育課程責任者に、看護学生向けの研究協力の依頼文書・電子ファイル(いずれも web 調査アクセス用 URL・QR コードの表示)(資料 5)を送付し、看護学生に研究協力について案内してもらう。

2. 看護学生は無記名の web 調査とし、マクロミルの WEB アンケートシステムを利用する。

3. 調査内容は、対象者の属性として大学設置主体と学年、Phase1 で作成した質問項目とする。

4. web 調査の回答の所要時間は 20 分程度を想定するが、時間制限は設けない。

5. 看護学生には web 調査の冒頭で研究同意の回答を求め、明示的に参加同意を問うとともに、質問項目の回答をもって同意とみなす。

6. 下記の解析結果を基に質問票の原案を修正する。

解析方法:

1. 対象の属性(大学の設置主体、学年)の度数、各質問項目の度数分布、平均値、最頻値、標準偏差等を算出する。

2. 属性別グループ間の全質問項目合計と各質問群、各質問への回答の差を比較試験(パラメトリック検定またはノンパラメトリック検定等)を行う。

3. 各属性の調査結果に及ぼす影響の探索のために回帰分析を行う。

4. 質問項目の因子分析を行い、構成概念妥当性を検討する。

5. 質問項目の内部均一性信頼度(クロンバック 係数)が 0.7 あるいは 0.8 以上であることを確認する。

6. 比較試験、回帰分析、因子分析の結果を基に総合的に項目分析を行い、質問項目の削除・修正し、質問票の原案を改定する。

7. 削除・修正した質問項目が多い場合などは、再度 Phase2 の予備調査を実施し、同様の解析を行う。

3) Phase3 看護学士課程学生の FtP 評価尺度の本調査

Phase2 予備調査結果の分析・解析により質問項目の大幅な修正を要する場合は、医学倫理審査

委員会の変更申請を行い、許可された時点で Phase3 の調査を開始する。

目的：Phase 2 で改定した質問票原案について、本調査により信頼性・妥当性を検討し、質問票を完了する。

対象：看護系大学の 1~4 年生，7 大学 2,240 名

サンプル数・サイズの根拠：Phase 2 と同じ根拠のもと、本調査では Phase 2 で改訂された質問項目数をもとにその 10 倍にサンプルサイズを設定する。なお、最低でもサンプルサイズは 400 必要 [11]で、回収率 20%で計算する[12]と、Phase 2 と同じサンプル数 7 大学，サンプルサイズ 2,240 名になる。なお、Phase 2 で改訂した質問項目数が 40 を超えた場合、サンプル数・サンプルサイズを増やす。

適用基準：研究協力の意向を示した看護系大学の全学生

除外基準：2022 年度に完成年度に至っていない大学，研究協力の拒否を示した看護系大学の学生

リクルート方法：2021 年度看護系大学協議会大学一覧で、設置主体の国公立大学を含むよう無作為抽出する。その際、Phase2 の予備調査で対象になった大学は除く。研究協力の意向を示す大学が 7 大学に満たない場合は、順次不足分の大学を追加する。謝礼はない。

方法：

1. 無作為抽出された 7 大学の教育課程責任者に研究目的・方法を記した研究協力の依頼文書(資料 6)を送付し、看護学生の調査の可否を尋ねる(資料 8)。協力可能な回答があった大学の教育課程責任者に、看護学生向けの研究協力の依頼文書・電子ファイル(いずれも web 調査アクセス用 URL・QR コードの表示)(資料 7)を送付し、看護学生に研究協力について案内してもらう。
2. 予備調査と同様に無記名の web 調査とし、マクロミルの WEB アンケートシステムを利用する。
3. 調査内容は、対象者の属性として大学設置主体と学年、Phase 2 で改良した質問票の質問項目とする。

4. web 調査の回答の所要時間は 20 分程度を想定するが、時間制限は設けない。

5. 看護学生には web 調査の冒頭で研究同意の回答を求め、明示的に参加同意を問うとともに、回答をもって同意とみなす。

6. 下記の解析結果を基に質問票原案を改定する、

解析方法：

1. 対象者の属性(大学の設置主体、学年)の度数、各質問項目の度数分布、平均値、最頻値、標準偏差等を算出する。

2. 属性別グループ間の全質問項目合計と各質問群、各質問への回答の差を比較試験(パラメトリック検定またはノンパラメトリック検定等)を行う。

3. 各属性の調査結果に及ぼす影響の探索のために回帰分析を行う。

4. 質問項目の因子分析を行い、構成概念妥当性を検討する。

5. 質問項目の内部均一性信頼度(クロンバック 係数)が 0.7 あるいは 0.8 以上であることを確認する。

6. より信頼性を高めるため、折半法を用いて質問項目をランダムに 2 等分し各グループの質問項目の合計得点の相関を求め検討する。

7. 最終的な内部均一性信頼度と構成概念妥当性を検討し、質問票=FtP 評価尺度を完了する。

4. 研究成果

2022 年末までに研究代表・分担者所属の研究機関である同志社女子大学、山梨大学の研究倫理審査委員会ですべて許可を得た。

英国の GMC の FtP で懸念される行動 8 つの側面[Medical students professional values and fitness to practice]、NMC の看護・助産学生の職業行動に関するガイダンス[Guidance on professional conduct for nursing and midwifery students]の 52 項目、獨協医科大学で翻訳された質問項目[Assessments of Student Fitness to Practice among Nursing Students]、本学科作成の冊子[アンプロフェッショナル、なぜいけないか?看護職者としてふさわしい態度・行動を学ぶために(看護学科)]等の文献を参考に、研究代表者が看護学生のアンプロフェッショナル行動や FtP の具体的質問項目を考えた。各研究機関の研究代表者・研究分担者とオンライン・面談でこれらの具体的質問項目を検討した。

しかし、2023 年 3 月に研究代表者が病気療養のため休暇・休職し業務としての研究は中止せざるを得なくなり、研究代表・分担者所属の研究倫理委員会に研究終了を報告し、本学でも研究終了とした。

看護学生のアンプロフェッショナル行動や FtP の具体的質問項目を研究者間で検討する中、これらが発達障害やパーソナリティ障害と深く関連しており、障害の特性を加味し質問項目を抽出する必要があると考えられた。しかし、これらの障害を有する本人が自覚しない/できない内容もあり得るため、その評価と教育への導入にはさらなる検討が必要と考えられる。

引用文献

[1]Evans L. Professionalism, professionalism and the development of education professionals. British Journal of Educational Student, 56(1), 20-38, 2008.

[2]Arnold L. Stern DT. What is Medical Professionalism? In Stern DT(ed): Measuring

- Medical Professionalism. Oxford University press New York 15-37, 2006.
- [3]ABIN Foundation ACP-ASIM Foundation European Federation of International Medicine . Medical Professionalism in the new millennium : a physician charter. Ann Intern Med 136, 243-246, 2002.
- [4]General Medical Council .Medical students professional values and fitness to practice, 2009.
- [5]General Medical Council .Welcome_to_medicine. Find out what is expected of you as a future doctor, 2011.
- [6]The Nursing and Midwifery Council. Guidance on professional conduct for nursing and midwifery students, 2009.
- [7]東京医科大学医学部看護学科 . アンプロフェッショナル、なぜいけないか？看護職者としてふさわしい態度・行動を学ぶために(看護学科), 東京医科大学医学部看護学科, 2020.
- [8]Midori N, Yuichiro K, Nozomu T, et al. Assessments of Student Fitness to Practice among Nursing Students .Dokkyo Journal of Medical Sciences 38(3), 223-226, 2011.
- [9]小塩真司 . SPSS と Amos による心理・調査データ解析第 3 版, 東京図書, 2018 .
- [10]倉智佐一, 山上暁 . 要説 心理統計法改訂版, 北大路書房, 1994 .
- [11]松尾太加志, 中村知晴 . 誰も教えてくれなかった因子分析, 北大路書房, 2010 .
- [12]千年よしみ . ミックスモード調査における郵送・ウェブ回答の回答率・回答者属性・項目無回答率の比較, 人口問題研究, 76(4), 467-487, 2020 .

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片山 由加里 (Katayama Yukari) (10290222)	同志社女子大学・看護学部・准教授 (34311)	
研究分担者	川端 愛 (Kawabata Ai) (20611247)	山梨大学・大学院総合研究部・准教授 (13501)	
研究分担者	萩本 明子 (Hagimoto Akiko) (60315900)	同志社女子大学・看護学部・准教授 (34311)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関